

## いい友達と巡り会えたから、今のボクが……

### 渡辺マルセロさん



中学・高校と努力して、現在岐阜大学教育学部4年生。

今のマルセロさんがあるのは、人生の節目にすばらしい日本の友達がいたことだそうです。

将来の夢は、「日本で人と接する仕事がしたいです」だそうです。

◇学校に通う中で、言葉に苦労をされたのでは？

6年生から日本の小学校に通いはじめましたが、中学生になっても、なかなか日本語を理解することができませんでした。中学2年生の終わりころからやっと授業が分かるようになりました。

それは、前はいとこたちがいたので、彼らとポルトガル語で話していれば良かったのですが、入学のころ、彼らがブラジルに帰国してしまい、ボクが日本で頑張るには友達を作る以外にありませんでした。

日本語を覚えることができたのは、友達や先生のおかげです。授業中、先生は黒板で難しい漢字にふりがなをつつてくださり、周りの友達は授業中に常に気を使ってくれていたので、とても救われました。

また、体育祭の時は、何も分から

なかったボクのために、同じ班の子のお母さんがゼッケンを作ってきてくれたり、東中のウォークラリーの時には、大きなおにぎりを作ってきてくれたりと、友達のお母さんにも本当にお世話になりました。

その友達とは、今もずっと付き合いがあり、よき友人です。

◇日本で学んでよかったことはどんなことですか？

今では慣れてしまった日本での生活ですが、今から考えると小学6年生という年齢でまったく文化や言語の違う環境を体験できたこ



△マルセロさん（後列右端）と中学時代仲の良かった皆さん



とは、大きかったと思います。

ブラジルでの生活がある程度経験したことと、日本の生活を経験したことにより、その違いを身をもって体験したことは、あらゆる物の見方が広がったと思います。

あたりまえに過ごしていた毎日だったのが、発見の連続に変わり、価値観が変わりましたね。それも、多くの人に出会い、助けていただいたおかげだと思い、感謝しています。

◇将来の夢は？

国籍の関係でいろいろと限られてきてしまうかもしれませんが、とにかく日本で人と接し、役に立てる仕事ができればいいな、と思います。